

# 令和6年度 学校評価報告書

学校名	三田市立八景中学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、未来を創造することができる社会の形成者を育成することを目指し、次の目標を挙げる。

「自律」 自ら考え、判断し行動する

「尊重」 違いを理解し、他者を尊重する

「創造」 豊かな発想を持ち、創意工夫する

## 2 今年度の学校重点目標

- (1) 命と人権の大切さを基盤にした、「豊かな心」を育成する教育を推進する。
- (2) 自主的・対話的で深い学びによる確かな学力の育成を推進する。
- (3) 生徒の声を受け止め、理解に努める生徒指導を推進する。
- (4) 特別支援教育を根幹に据え、個に応じた教育を推進する。
- (5) 自己実現をめざした進路指導を推進する。
- (6) 家庭や地域と連携した信頼と魅力のある学校づくりを推進する。
- (7) 働きがいのある職場づくりを推進する。

## 3 総合的な自己評価

学校教育目標やめざす生徒像・学校像の具現化に向け、生徒が「通いたい」、保護者や地域住民が「通わせたい」、そして教職員が「働きたい」と思う学校づくりに取り組んできた。

生徒はまじめに学習に取り組み、落ち着いて学校生活を送っている。生徒の学校評価アンケート結果は概ね良好である。また、保護者の評価も、多くの項目で肯定的評価が(「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」)8割を超えていた。昨年度、課題のひとつであった「学習」に関しても、8割を超えることができた。

しかし、家庭学習に関しては、改善できていない。学校はより一層、生徒が「学びに向かう姿勢」を高め、自主的・意欲的に自ら学習に取り組む態度を育てるために、「わかる授業」「できた・わかった」「もっと知りたい、学びたい」と感じる指導の充実に努めていかなければならない。

自由記述で多かった意見は、施設や設備に関する内容だった。新設や改修等が必要な場合は、安全を最優先し、教育委員会へ対応を依頼していく。また、「教員が公平に生徒に接していない」という意見もあった。生徒が不公平だと感じるような態度や発言は許されない。正していきたいと思います。

これからも、生徒を真ん中に置いて、学校、家庭、地域が協働し、よりよい次世代の担い手を育てていきたいと思う。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高く、学校の取り組みが充実していると感じた。9割に満たなかった項目においても、保護者および生徒の評価は「施設設備」「地域行事」の項目以外は概ね良好な結果が出ている。

「施設設備」については、安心・安全な学習環境づくりを第一に考え、対応を検討願う。「地域行事」については、40周年記念行事での地域伝統芸能のお披露目は地域行事を知らせる良いきっかけとなったと感じる。中学生の地域行事への参加には、地域行事の周知や保護者の地域行事への意識を変えることなど、学校と家庭、そして地域とが連携していく必要があるように感じる。また、地域防災の点から、中学生の存在は大きく感じるため防災意識を高めて災害時の対応に備えてもらいたい。

「学習」の項目では概ね肯定的な意見は8割を超える評価を得ているが、家庭学習については生徒、保護者、教職員ともに5割前後の評価にとどまっている。分かる授業に向けて、つながりのある課題の設定など改善を図ってほしい。

その他にも、アンケートの中にある保護者からの自由記述の内容についても、一つひとつの意見を大切にしたい。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習	わかる喜びと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着と学びに向かう力の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートでは、授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいるという肯定的な回答が多い反面、家庭学習の取組には課題を残す結果となっている。</li> <li>兵庫型学習システムを国語、英語、数学で導入し、少人数で個に応じた指導を行った。</li> <li>ドリルパークを活用し基礎基本の定着を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員は互見授業を行い、「分かりやすい授業づくり」を目指し、授業力の向上に努める。</li> <li>学習相談の在り方を工夫し、個に応じた指導や学習内容の精選を検討する。</li> <li>家庭学習が定着するように、オクリンクの活用など課題提示の工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を向上させ、家庭学習の定着を図るために、これからも引き続き個に応じた支援が必要に感じる。</li> <li>肯定的な評価は高いものがあるが、欠席者に対する学習支援や不登校生等が安心できる居場所作りをお願いする。</li> <li>また、相談室の運営において、学校支援ボランティア等の活用も検討をお願いする。</li> </ul>
	キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくりにより、自尊感情を高め、自己実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の評価において、肯定的評価は昨年より4.3ポイントあがっているため、引き続き将来に向けて明確な目標が持てるようキャリア教育を進めていきたい。</li> <li>校区幼小中学校で12年間を見据えて、「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有し、連携を積極的に図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生より、「トキメキ仕事体験」など、専修学校の専門的な指導の下、いろいろな体験活動を通じて、働くことや学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける等、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る。</li> <li>2年生では、トライやる・ウィークでの活動を通して、将来のことを考え、学ぶことの意義を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験などの体験活動では、事前・事後の指導において、地域で活動している方々やと連携した活動を取り入れ、キャリア教育の充実をお願いする。</li> </ul>

生徒指導 いじめ防止	教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達に係る支援の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導について、肯定的評価の割合が生徒は90パーセントを超えており、「生徒同士で間違っただけをお互いに注意し合う仲間関係が築けている」項目でも昨年度より7.7ポイント上がっている。</li> <li>・保護者も90パーセントを超えており、一定の理解を得ている。</li> <li>・教育相談についても、生徒は98パーセント、保護者は96パーセントを超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動や道徳教育の充実等により、生徒一人ひとりが自己有用感を得られるような機会を増やす。</li> <li>・班長会議の実施やSHRの充実など自治的集団作りを段階的に目標を設定して生徒同士の信頼関係を築いてくよう取り組む。</li> <li>・SCやSSW等の専門的見地からの意見を参考に、不登校生徒や支援の必要な生徒へ丁寧に関わっていく。</li> <li>・毎学期に教育相談の時間をできる限り確保し心のケアの充実を更に図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒への対応について、SCやSSW、子どものサポーター等、さまざまな工夫をされて対応されているので、今後も生徒理解に一層努めてもらいたい。地域にも「子ども食堂」を利用している生徒がおり、子どもの発信に気付ける機会がある。連携をしていければよいと考える。</li> </ul>
	本校「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒アンケート」のいじめ問題の対応について肯定的評価の割合が5.9ポイント上がった。</li> <li>・いじめ問題の対応についての保護者の肯定的評価の割合は高かったが、教職員の割合と比べると7.8ポイント低い。</li> <li>・先生の公平な態度について生徒の肯定的評価の割合は72.4パーセントという低い結果であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめを絶対に許さない学校」として、いじめ対応チームを中心に、計画的かつ組織的に対応できるように尽力する。</li> <li>・生徒との信頼関係を基にした相談しやすい環境の構築をめざし、聞くことと共感の姿勢を心がけて関わっていく。そのためにも、教師は「公平・公正」であるという姿を、全力で示していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が、生徒にとって安心して学べる環境であるように、高評価を堅持してもらいたい。</li> <li>・日頃の生徒との関わりを何よりも大切にしてほしい。</li> <li>・肯定的評価をしていない9%の生徒の声を聞き逃さないように、教職員間の情報共有を徹底する。</li> <li>・いろいろな生徒への対応がある中での接し方に違いもある。生徒一人ひとりに応じた丁寧な対応をお願いする。</li> </ul>
研修 (資質向上)	特別支援教育の視点を生かし、個に応じた指導の工夫、すべての生徒にわかりやすい授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を工夫し学力向上に努めている項目で、保護者は15.3ポイント、生徒は2.9ポイント肯定的評価の割合が上がった。</li> <li>・互見授業を実施して、授業改善を図っている。授業力を高めることができた。</li> <li>・ITC機器の活用率は年々上がってきている。学んだことを主体的に活用できるよう研究と修養に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的で深い学びにもつながるICT機器活用に係る教員のスキルに格差があるので、個別の研修等を計画し実践的指導力の向上を図っていく。</li> <li>・授業のめあてに対する振り返りの時間を増やす。</li> <li>・少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。</li> <li>・家庭学習の定着や不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着に課題のある家庭学習において、ICT機器の活用や興味関心が持てる課題設定など工夫を凝らしたものを提示してはどうかとを感じる。内容の精選も含め、適切な課題と、評価が必要と考える。</li> <li>・タブレットを活用した不登校生徒への支援などもできるようになればよいと期待している。</li> </ul>
	研修・研究体制の充実により、人権感覚・危機管理能力の向上、専門性と実践的指導力、課題対応能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「義務教育9年間を通して系統的・継続的な主体的、対話的な深い学び」を研究テーマとして生徒につけたい力を検討して、組織的に取り組んだ。</li> <li>・各種委員会で情報共有を図り、SCやSSW等とも連携し、支援の必要な生徒に対してより丁寧な対応ができるよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校卒業時に身につけさせたい力を校区小学校とも共有し、義務教育9年間を見据えた指導に努める。そのためにも、小中連携を充実させて、小中一貫教育の研究を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携だけではなく、地域との連携を強化していくことが必要であろう。様々な取組に保護者や地域の協力が得られやすい工夫がなくてはならない。</li> </ul>

情報提供 保護者・ 地域の連携	教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの「情報発信」では、保護者の肯定的評価は、昨年度に続き90パーセントを超える高い評価を得た。</li> <li>・学校ホームページや学校だより等で積極的に情報発信を行っている。</li> <li>・各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページや学校だよりを効果的に活用し、適時適切な情報発信を心がけ、さらに充実させていく。</li> <li>・学校行事やオープンスクールを通して、地域に開かれた学校づくりを進める。</li> <li>・学校の情報を学校だより、学年通信、学級通信等、それぞれに色分けされた内容で情報を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりなどの情報がホームページなどで随時更新されていることは今後も継続して取組をお願いする。</li> <li>・「お便りを渡せている」、「学校であったこと等家の人に話している」と回答した生徒の割合が8割に満たない結果が出ている。学校だよりなど保護者に確実に手に渡ることができ取組には改善を要する。</li> </ul>
	生徒が地域で活動する機会の充実や地域の教育力を生かした取組により、連携と協働の学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域ふれあい美化活動』の子どもたちの参加は、地域でも評価された。</li> <li>・各地域部会での『中学生の発表』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。</li> <li>・学校行事への参加については、生徒・保護者ともに90パーセントを超えているが、地域行事への参加については、生徒・保護者ともに5割を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の協力やボランティアに感謝するとともに、生徒が地域に出かける機会を多くつくる。</li> <li>・昨年度から取り組んでいる『地域ふれあい美化活動』のように、学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加については、中学生へのアナウンスも大切だが、保護者の認識や経験が大きく関わってくるものと考える。</li> <li>・『地域ふれあい美化活動』の取組を継続し、参加した生徒も増加した。学校からの発信があったことが参加数の増加につながった。今後も学校と地域が連携した活動を望む。</li> <li>・学校と地域の連携を強化するために、地域の方が学校へ行きやすい行事や取組等を積極的に行い、その仕組み作りをする必要がある。</li> </ul>

## 6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
12月	生徒・保護者・教職員対象にアンケートを実施
2月	アンケート結果及び学校自己評価のまとめ
3月	学校関係者評価のまとめ

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

## 7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
5月27日	第1回学校関係者評価委員会(学校教育目標・年間行事計画等の説明、評価計画の説明、意見交換)
9月2日	第2回学校関係者評価委員会(授業参観、生徒会役員との懇談、意見交換)
11月25日	第3回学校関係者評価委員会(教育活動等についての意見交換、評価項目検討)
2月18日	第4回学校関係者評価委員会(評価・総括)

## 8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
3月	学校だより	学校評価結果を記載して保護者に配布。	○
3月	学校ホームページ	「学校評価報告書」を掲載。	
4月	PTA 総会	令和6年度の学校評価結果を踏まえて、令和7年度の取組等を説明。	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います